



こども霞が関見学デー
(平成30年8月1日～2日、農林水産省内)

CONTENTS

第7回「魚の国のしあわせ」推進会議の開催について	2
	漁政部 企画課

「こども霞が関見学デー」	4
	漁政部 漁政課、加工流通課
	資源管理部 国際課
	増殖推進部 研究指導課、栽培養殖課

平成30年7月分のプレスリリース	8
------------------------	---

第7回「魚の国のしあわせ」推進会議の開催について

漁政部 企画課

1. 「魚の国のしあわせ」プロジェクトについて

「魚の国のしあわせ」プロジェクトは、消費者に魚食の魅力を訴え水産物消費を拡大していくため、漁業者、水産関係団体、流通業者、各種メーカー、学校・教育機関、行政等の水産に関わるあらゆる関係者による官民協働の取組として、2012年8月に開始されました。このプロジェクトの下、①水産物の消費拡大に資する様々な取組を行っている企業・団体を登録・公表し、魚食普及を目的に個々の活動の更なる拡大を図る「『魚の国のしあわせ』プロジェクト実証事業」、②手軽・気軽においしく水産物を食べられる商品及びその食べ方を選定する「ファストフィッシュ」、③文部科学省の「子供と社会の架け橋となるポータルサイト」「土曜学習応援団」と連携し、学校教育の場における魚食普及活動の支援を行う「学校教育を通じた魚食普及の支援」、④全国各地で魚食文化の普及・伝承のために活動されている方々を後押しするため、水産庁長官から任命される「お魚かたりべ」の4つの取組を行ってきました。そして、今年より新たな取組として「漁業女子プロジェクト（仮称）」が加わります。

2. 会議の内容について

- (1) 7月23日（月）に、水産物の消費拡大の取組について意見交換を行い、「魚の国のしあわせ」プロジェクトの今後の方向性を話し合う、第7回「魚の国のしあわせ」推進会議が開催されました。

会議では、さまざまな魚食普及の取組が説明され、委員の皆様より様々な意見が出ました。「ファストフィッシュは業界では浸透しているが、一般にはまだ浸透していない」とか、「親が魚の調理法を知らないため、子供たちが魚を食べない」、「魚の単価上昇が課題となっている」といった意見がありました。

- (2) また、2017年度のしあわせ大賞の選考も行われ、以下のような結果となりました。

最優秀賞 中部水産（株）

優秀賞 （株）うおいち

奨励賞 （株）仙台水産 仙都魚類（株）

努力賞 （一財）水産物市場改善協会 / 日本おさかなマイスター協会

- (3) さらに、イオンリテール株式会社のFast Fish おさかなほぐし身取組事例や産経新聞のSAKANA & JAPAN PROJECT など「魚の国のしあわせ」プロジェクト以外の各企業や団体が行う魚食普及活動についても紹介されました。

- (4) また、今年度から新たに漁業女子プロジェクト（仮称）について、取組んでいくことが了承されました。

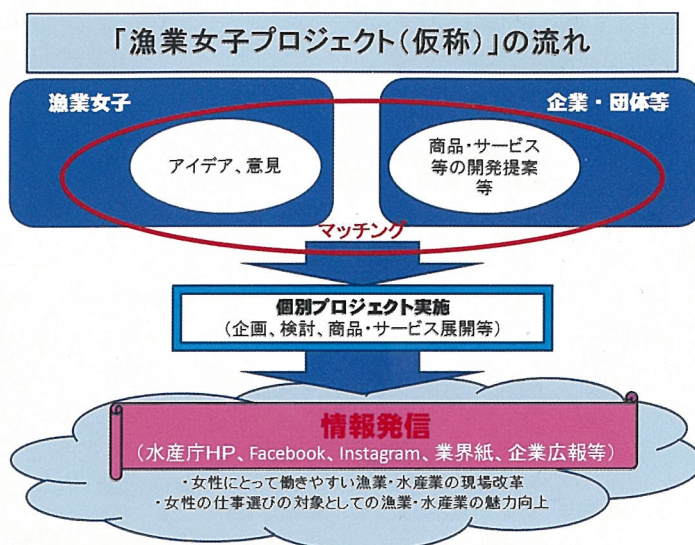


3. 漁業女子プロジェクト（仮称）

漁業・水産業で活躍する女性の姿を様々な切り口から情報発信することにより、漁業・水産業に携わる女性の存在感を高めるとともに、女性にとって働きやすい漁業・水産業の現場改革や仕事選びの対象としての漁業・水産業の魅力向上を後押しする漁業女子プロジェクト（仮称）を新たに設立することとしました。

このプロジェクトでは、漁業・水産業の各分野の現場で活躍されている女性が日々の生活や仕事、自然との関わりの中で培った知恵を、様々な企業及び団体等の技術やノウハウ、アイデア等と結びつけ、新たな商品やサービス、情報を創造し、社会全体に発信していくこととしています。

今後プロジェクトの名称の決定や公式ホームページの開設等の準備を進め、本年11月の設立を予定しています。



4. 今後のスケジュール

- ・しあわせ大賞受賞団体の表彰と取材
- ・「第6回 Fish-1 グランプリ」の開催

11月25日（日）に東京都千代田区日比谷公園で「第6回 Fish-1 グランプリ」が開催され、「国産魚ファストフィッシュコンテスト」が行われます。また、ステージでは、2017年度のしあわせ大賞の受賞団体による取組の実演を企画しています。

- ・ファストフィッシュ商品の公募

今年度も計2回の公募を実施することとし、第19回は8月6日から8月24日まで、第20回については、来年1月28日から2月8日まで公募を実施し、選定します。

- ・ファストフィッシュ商品の製造工程や魚食普及の取組などの現地取材
- ・ファストフィッシュのPR活動（於：農林水産省「消費者の部屋」）

本会議の資料や「魚の国のしあわせ」プロジェクトの取組や取材レポートはWebサイトに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

「魚の国のしあわせ」プロジェクトの情報は
こちらに掲載しています。

CLICK!



<http://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/sakanakuni.html>

＜お問い合わせ先＞

水産庁漁政部企画課内 「魚の国のしあわせ」プロジェクト事務局

Email: fastfish@maff.go.jp

TEL: 03-3592-0731

FAX: 03-3501-5097

「こども霞が関見学デー」

漁政部 漁政課、加工流通課

資源管理部 国際課

増殖推進部 研究指導課、栽培養殖課

8月1日（水）及び2日（木）に、毎年恒例の「こども霞が関見学デー」が実施されました。

「こども霞が関見学デー」は、文部科学省をはじめとした府省庁等が連携して、業務説明や省内見学などを行うことにより、親子のふれあいを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、府省庁等の施策に対する理解を深めてもらうことを目的として、平成12年度から実施しています。

農林水産省内に設けられた水産庁の4つの会場には、2日間で5,780名のお子様及び引率者の皆様にご来場頂きました。

各会場の様子は以下のとおりです。

「ギョーさん、おさかなを知ろう！」

初日の1日（水）に、今年もお魚大使の「さかなクン」によるお魚講座を開催しました。

本年は「夏が旬の魚」をテーマに、さかなクンが描いたイラストを交えたクイズをしました。さかなクンが出題したクイズの中には難しいものもあり、子ども達は苦戦しつつも、元気よく手を上げて、クイズに答えてくれました。引率者や保護者達の方からは、さかなクンが出題したクイズの答えを聞くたびに「おお！」という声があがるなど、子ども達と一緒に魚の面白さを学んで頂けたかと思えます。

また、さかなクンは事前にたくさん魚を持ってきました。さかなクンが子ども達の近くで本物の魚を見せながら、その魚の特徴などを説明すると、子ども達は身を乗り出して「すごい！」「大きい！」という大歓声が上がりました。

最後にさかなクンと子ども達で記念写真を撮りましたが、子ども達はもっとさかなクンと一緒にいたかったのか、名残惜しそうでした。



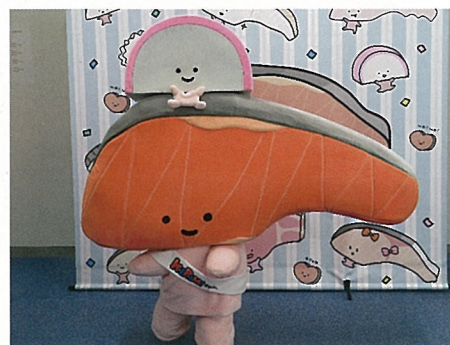
「KIRIMI ちゃん、と楽しく遊ぼうね！」

1日（水）と2日（木）に「お魚食べよう大使 KIRIMI ちゃん」が水産庁に来てくれました。今年のKIRIMI ちゃん、は、皆様ご存じの調味料「ポン酢」とコラボです！

KIRIMI ちゃん、が会場に登場すると、すぐに人が集まる大人気ぶり。KIRIMI ちゃん、は来場者と嬉しそうに戯れたり、可愛らしいポーズを取ったりしながら、ポン酢のぬいぐるみと一緒に写真撮影してくれました。KIRIMI ちゃん、を見ながら真剣に塗り絵をして、「うまく塗れたよ！」と嬉しそうに絵を見せてくれる子もいました。

KIRIMI ちゃん、が「お魚食べよう大使」であることをご来場頂いた方々に伝えると「知っている！」「お魚大好き！」という声を頂きました。また、ご協力頂いた企業からポン酢とポン酢を使った魚のメニューをプレゼントしたところ、「いつも使っています」「こんな食べ方もあるんですね。」という声も頂き、大盛況で終えることができました。

とても暑い夏が続いているので、さっぱりと美味しく食べられるポン酢を使った魚のレシピを熱心に見ていた方がいらしたのも印象的でした。



「水産加工品を知ろう！」

「水産加工品を知ろう！」では、子どもたちに水産加工品について理解を深めてもらうことを目的として鰹節削り体験を実施しました。イベントの内容としては、子どもたちに手回し型の鰹節削り機を回して鰹節を削ってもらい、削った鰹節やパンフレット、水産加工品のお菓子等が入ったお土産を持って帰ってもらうというものです。8月1日、2日の2日間とも開場から終了時まで途切れることなく行列ができる程の人気の、沢山の子どもたちに鰹節削り体験してもらいました（1日目417人、2日目379人：独自集計結果）。

どの子どもたちも一生懸命鰹節削り機を回していました。鰹節は世界一堅い食べ物とも言われていますので、なかなか削るのは大変なのですが、最後まであきらめず楽しそうに鰹節を削る子どもたちの姿はとても印象的でした。

また、ブース内に鰹節に対する理解を深めてもらうために直接鰹節に触ることのできるコーナーを設けたところ、多くの子どもたちが鰹節に直接触れて堅さやにおいを確かめていました。



鰹節を削る子ども



パンフレットの配布

「知って応援しよう！福島の漁業」

ご存じのとおり、平成23年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故により、福島県周辺海域へ放射性物質が流出し、水産物への汚染が懸念されました。そのため政府は事故後、水産物中の放射性物質のモニタリング検査を継続して実施しており、その結果、時間とともに放射性物質の影響は徐々に軽減されていることが分かってきました。福島県においても平成27年4月以降、国の基準値（100ベクレル/キログラム）を超えた海産魚種の例がないといった状況です。

このような現状を広く一般の皆様にも、こども霞が関見学デーの機会を通じて認知していただくため、福島県に水揚げされる水産物の安全性をPRするブース出展をいたしました。ブースでは、モニタリング検査結果、福島県の試験操業の取り組み等が分かるパネルの展示、放射性物質の検査に関するパンフレット配布を行った他、福島で水揚げされる水産物に親しんでいただくため、子供向けに福島の水産物にまつわるクイズラリーも企画しました。

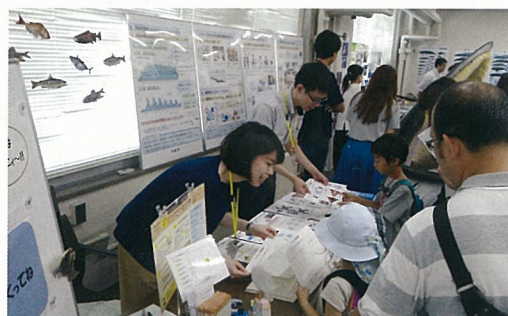
こども霞が関見学デー当日はたくさんの子供達とその親御さん達にご来場いただき、盛況を博しました。来場者の中には事故と関連して水産物の放射性物質の状況や風評について尋ねられる方もおりましたが、福島の水産物にネガティブな意見をされる方はいらっしゃいませんでした。クイズラリーについては、問題が少し難しかったかなと反省する一方で、親子で真剣に考えていただけたのでかえって記憶に残せてもらえたのではと前向きにも考えているところです。

「クイズに出ていた福島産の魚をお店で見かけたら買ってみます」とおっしゃっていただいた親御さんもいらっしゃったのがとても励みになりました。このような方々が福島の水産物の消費の後押しとなり、福島の水産物が少しでも早く回復することを切に願っています。

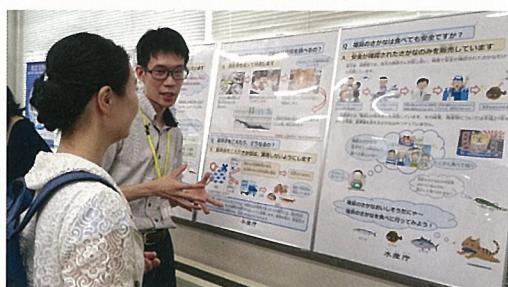
「クイズとペーパークラフトで魚を学ぼう！」

ここでは、国立研究開発法人水産研究・教育機構（以下、「水産機構」）の職員も参加し、ペーパークラフトとお魚クイズ、水産機構の紹介を行いました。ペーパークラフトとお魚クイズは水産機構が独自に作成したもので、ペーパークラフトは6種類の魚を用意して配布しました。見た目は本物そっくりで、「美味しそう！」という声も聞かれました。こどもにはトビウオが1番人気だったようです。お魚クイズは大人でもなかなか難しく感じる問題もありましたが、パソコンを使ってゲーム感覚で楽しむことができるので、親子で協力しながら楽しんでいただけたと思います。また、昨年に引き続き、水産機構のマスコットキャラクターの「あんじい」も一緒に参加しました。あんじいは子どもたちの人気者で、たくさんのこどもとふれ合うことができました。

2日間にわたり多くの方々にお越しいただきありがとうございました。子どもたちの夏の楽しい思い出の一コマになってくれていると、とてもうれしく思います。また、これを機に水産に興味を持ち、水産機構についても知るきっかけになってくれると良いと思います。



ブース風景



展示パネルの解説



「真珠を使ったイベントについて」

日本は、世界で初めて真珠養殖に成功した養殖真珠発祥の地であり、現在、国内では愛媛県、長崎県、三重県を主要産地として盛んに真珠養殖が営まれています。

水産庁は、日本が誇るこの真珠について国民の理解を深めてもらうため、こども霞が関デーにおいて、平成25年度から真珠養殖に関するパネル展示や、真珠を使ったイベントを実施しています。



真珠を使ったドアプレート製作教室



真珠アクセサリーを身につけた写真撮影会

今年度も、愛媛県や三重県の真珠

生産地の関係者の協力を得て、「真珠を使ったドアプレート製作教室」及び「真珠アクセサリーを身につけた写真撮影会」を実施しました。特に「真珠を使ったドアプレート製作教室」には、二日間で累計610人（子ども及びその引率者を含む）と大勢の方にご参加いただきました。このドアプレート製作教室では、真珠ができるまでの工程を勉強したあと、「規格外の真珠※」を使ったドアプレートを製作する内容になっています。

※「規格外の真珠」……形、色、キズなどから商品にならないもので本来は処分される真珠。

参加した子ども達は、夢中でドアプレートの製作に取り組んでいました。また、真珠がどのようにできるかについて、夏休みの自由研究のテーマにしたいと、スタッフに詳しく質問する子どももいらっしゃいました。これほどたくさんの真珠に触れたのは初めてという方が多く、イベントを終えた参加者の皆さんは、満足そうな表情で完成したドアプレートを持ち帰っていました。

このイベントをきっかけに参加者が真珠に興味をもち、今後も真珠に触れる機会を多く作っていただければイベント担当者として大変嬉しく思います。

昨今、真珠養殖業のみならず、漁業・養殖業の現場では従事者の高齢化や後継者不足が深刻化し、今回のイベントのような生産関係者が自ら水産物の普及に関する取組を行うことも難しくなって来ております。その様ななか、毎年真珠イベントの実施にご協力いただいている愛媛県、三重県の皆さんの様々な真珠普及の取組に対しては、水産庁としても引き続き応援していきたいと思っております。

「クジラについて学ぼう！」

「クジラについて学ぼう！」のブースでは、子どもたちに鯨類についての理解を深めてもらうために、標本やパネルの展示などを行いました。

中でも、シャチの歯、クジラのヒゲ、実物大のクロミンククジラの模型は子どもたちに大人気で、クジラのあまりの大きさに大人も子どもも驚く姿が多く見られました。ブース内に設置されたクジラクイズのコーナーでは、親子揃って難問に挑戦する姿が見受けられました。

お昼時には、カレー風味のクジラの竜田揚げが振る舞われ、ブースはさらに賑わいを増しました。クジラを初めて食べた子どもは多かったようですが、何回もおかわりに来る子どももいるなど、大勢の方に気に入ってもらったようです。

また、こども霞が関見学デーに合わせ、はるばる南極海からゆるキャラの「バレニンちゃん」が来てくれました。やはり我々はバレニンちゃん人気には敵いません。バレニンちゃんの周りにはいつも人だかりができていました。流行りのInstagramにでもアップしてくれたのでしょうか、バレニンちゃんと一緒に子どもの記念写真を撮るお母さんの姿もよく見られました。



「錦鯉について学ぼう！」

展示会場が中央に乱立し賑わいを見せる中で、少し離れた別館の端に錦鯉が今年もやってきました。全日本錦鯉振興会、吉田鑑賞魚販売(株)、栗原養魚場による全面協力のもと今年でなんと3回目。2日間にわたり、多くのご家族や職員のみなさまにお越し頂きました。

錦鯉の品種や生産風景のパネル展示、パンフレットの配布とともに、目玉はやはり1匹100万円の大きな錦鯉2匹との触れ合いでしょう。時折順番待ちの行列ができるほどの人気振りを見せ、3回目の展示もますますの盛り上がりを感じさせてくれました。

さらに、注目したいのは昨年から新たに設置した小型錦鯉の水槽展示です。優雅に泳ぐ9匹の小型錦鯉の姿に目を引かれ、足を止める方が非常に多くいらっしゃいました。水槽で飼う方法を興味津々に聞いていたり、写真を思い思いに自ら撮影したりする子ども達や、子どもと小型錦鯉のベストショットを狙うご家族など、多くの方々にこの展示も楽しんで頂けたのではないかと思います。

そんな錦鯉展示の準備や裏側を少しでもご紹介。セッティングは前日準備でほぼ行います。ほぼ、と言うのはそう、錦鯉の搬入以外のことです。水の準備も想像以上に時間がかかりますが、なんとか前日に水槽やそこに張る水、パネルやパンフレットの準備を終わらせます。そしてこども霞が関見学デー当日の朝、いよいよ大きな錦鯉と小型錦鯉が霞ヶ関に到着。2匹の大きな錦鯉は、

多くの子ども達から頭や口元を優しくなでられるなど大活躍。1日目を終え、休養のため埼玉の養魚池に一旦帰り、また2日目の朝、霞ヶ関にやってくるのです。(小型錦鯉はそのまま水槽に入れたまま一泊します。)

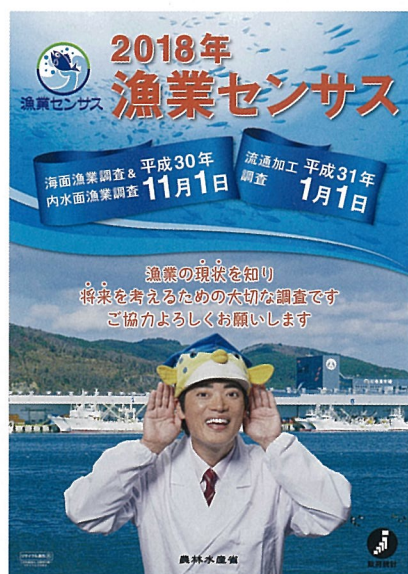
いかがでしたか。来場頂いた子ども達からは「去年も来た!」「来年も触りに来たい!」「たのしい!」など嬉しい声がたくさん聞こえてきました。長時間の対応に、関係者も終了時は疲弊していましたが、おかげさまで昨年よりも大幅な入場者の増加につながりました。じわじわと、霞ヶ関デーに錦鯉が来るという情報が浸透しつつあるのでしょうか、今年の大盛況振りを大変嬉しく思います。

クールジャパンの象徴の1つとして海外での人気が高まる一方の錦鯉。その反面、国内での需要低迷が今後の課題となっています。こうした子ども達を対象とした継続的な取組が少しでも国内需要の回復に繋がってくれることを期待しています。



お知らせ

2018年漁業センサスにご協力をお願いします



平成30年11月1日現在(流通加工調査は平成31年1月1日現在)で「2018年漁業センサス」を実施します。

「漁業センサス」は、我が国漁業の生産構造、就業構造を明らかにするとともに、漁村、水産物流通・加工業などの漁業をとりまく実態と変化を総合的に把握することを目的に、統計法に基づいて5年ごとに行う大規模な調査で、1949年(昭和24年)に第1回目を実施してから、今回で14回目となります。

調査結果は、農林水産省が水産施策を企画・立案するための重要な指標として活用されているほか、ウェブサイトにて公表し、一般の方にもご利用いただいております。

10月中旬(流通加工調査は1月上旬)から調査員が漁業関係者の方々に訪問しますので、調査票に漁業の操業状況などの記入をお願いします。なお、インターネットを利用したオンラインでの回答も可能です。

調査結果は、統計を作成するためだけに使われます。統計調査員や調査関係者が、個人の調査内容を他に漏らしたり、課税等その他の目的に使用することは法律で厳しく禁じられています。

「漁業センサス」は、漁業の現状を知り将来を考えるための大切な調査です。ご協力をお願いします。

第38回全国豊かな海づくり大会の開催について

全国豊かな海づくり大会は、魚食国である日本の食卓に、安全で美味しい水産食料を届けるために、水産資源の保護・管理と海や湖沼・河川の環境保全の大切さを広く国民に訴えるとともに、つくり育てる漁業の推進を通じて、明日の我が国漁業の振興と発展を図ることを目的として、昭和56年に第1回大会が大分県で開催されて以来、毎年各地で開催されています。

第38回目を迎える今年は、「森・川・海 かがやく未来へ 水の旅」の大会テーマのもと、10月27日(土)から28日(日)にかけて、高知県高知市において式典行事を、土佐市宇佐しおかぜ公園において海上歓迎・放流行事を、また、高知市中央公園において関連行事を、明治150年記念大会として行います。



大会キャラクター
高知県イメージキャラクター
「くろしおくん」



発表年月日	発表事項名	担当課
H30.7.2	「南インド洋漁業協定（SIOFA）第5回 締約国会議」の結果について	国際課
H30.7.3	「平成30年（2018年）IWC/日本共同北太平洋鯨類目視調査」の実施について	国際課
H30.7.5	「北太平洋漁業委員会（NPFC）第4回年次会合」の結果について	国際課
H30.7.6	第7回「魚の国のしあわせ」推進会議の開催及び一般傍聴について	企画課
H30.7.6	平成30年度「こども霞が関見学デー」～水産庁イベントについて～	漁政課
H30.7.9	「日パラオ漁業協議」の開催について	国際課
H30.7.13	「ウナギの国際的資源保護・管理に係る第11回非公式協議」の結果についての共同発表	漁場資源課
H30.7.13	「日パラオ漁業協議」の結果について	国際課
H30.7.20	「漁業・水産業で活躍する女性を応援するプロジェクト」の名称の公募について	研究指導課
H30.7.25	「第17回聞き書き甲子園研修会開会式」の開催について	計画課 林野庁森林利用課
H30.7.30	「水産政策審議会 第89回 資源管理分科会」の開催及び一般傍聴について	漁政課
H30.7.31	「第17回 全国漁港漁場整備技術研究発表会」の開催及び参加者の募集について	整備課
H30.7.31	平成30年度 サンマ長期漁海況予報（道東～常磐海域）	漁場資源課
H30.7.31	「第9回太平洋クロマグロの資源・養殖管理に関する全国会議」の開催及び一般参加について	管理課

編集後記 窓辺のカーテン

霞が関では、8月1日、2日に「こども霞が関見学デー」が開催されました。今年も農林水産省の来場者数が1番になり、水産庁のイベントにもたくさん方に来ていただきました。各イベント会場では、子どもたちの元気に包まれるとともに、我々職員もその元気を分けて貰った2日間でした。

「漁政の窓」では、今後も皆様に水産庁施策についてわかりやすくお伝えできるよう努めていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ご意見やご質問がありましたら、以下にお願いいたします。

水産庁施策情報誌 漁政の窓

編集・発行 水産庁漁政部漁政課広報班

〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 合同庁舎1号館8階

代表 03-3502-8111（内線6505）

URL <http://www.jfa.maff.go.jp/>

ご意見 ご質問はこちらへ ➡ URL <http://www.maff.go.jp/j/apply/recp/index.html>